

# 体育授業の組織風土における学生の組織風土 に対する適合性に関する一考察

木本 泰洋

## 要旨

企業では、企業風土や社風などの組織文化や組織風土が従業員に与える影響について研究がされている。この組織風土は従業員のモチベーションを通して成果に影響を与えることが知られている。つまり、従業員のモチベーションが高まるような組織風土が必要になってくる。このことが学校における教育現場でも同様ではないかと考えた。つまり、学習者の学習意欲を高めていくための一つとして、学習者にあった組織風土を探求する必要があると考えた。そこで、企業において組織文化や組織風土についての研究を学校の授業に応用できると考えた。本研究の目的を、第一に体育授業における組織風土の構造を明らかにする。第二に組織風土別因子が、組織風土に対する適合度にどのような影響を与えたのかを明らかにする。

結果として、体育授業における組織風土構造は、第1因子「自己中心的・責任回避」、第2因子「積極的」、第3因子「協力的」、第4因子「専門的志向・成果的」、第5因子「責任的」、第6因子「親近的・変化性」、第7因子「信頼性」の7因子65項目の全分散を説明する割合は56.436%でまとまった。また、共分散分析によるパス解析の結果、「積極的」と「責任的」が適合度に対して正の有意なパスを示して、「自己中心的・責任回避」が適合度に対して負の有意なパスを示した。

**キーワード**：授業、組織風土、適合度、因子分析、重回帰分析

## I. 目的

組織を円滑に運営させていくための研究がされている中で、組織と個人についての研究に着目をした。競争優位に立つために、いかにして経営資源を確保し、独自性を持つ必要がある。ここでいう経営資源とは「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」のことである。これらの「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」は並列的に考えられ、特に「ヒト」に対しては、企業から「ヒト」への要求を一方向のみに流れる傾向にあった。しかし、「組織を構成する人間はたんにシステム部品のようなものではない」<sup>1)</sup>という考えから、個人の能力に「企業活動のどのレベルにおいても自発的、創造的、革新的活動」<sup>2)</sup>を強く求められる時代になりつつあると思われる。企業における個人を取り巻く制度や構造などの環境が、個人にどのように感じとらせ、個人にどのように影響を及ぼしているのかについて、組織文化や組織風土として研究がされている。しかし、組織文化と組織風土の概念はあまり明確な区別をされずに混同されてきた。

そこで、福間は「組織風土研究の発展の歴史」の中で、組織文化と組織風土の関係について、

「組織風土は組織文化の一部であり、同時に存在するものである」<sup>3)</sup>ことを導き出した。さらに、組織風土の概念についての定義は多く論議をされている中で、関本は組織風土を「組織の中で生活し、活動している人びとによって明白に、あるいは暗黙に知覚され、メンバーのモチベーションや態度・行動に影響を及ぼすと考えられる一連の特性（価値観、規範、慣習、雰囲気等々）のパターンのことをいう。その特性のパターン、すなわち組織風土は、それぞれの組織体を他の組織体から識別できるような、比較的持続的な特性の複合的全体である。」<sup>4)</sup>と定義をし、企業における組織風土尺度作成について研究をしている。

組織風土は、「さまざまなモチベーションがその風土によって喚起され、メンバーが判断を下し、行動が促されて、成果が得られること」<sup>5)</sup>という働きがあり、組織風土の特徴として「組織におけるメンバーの行動パターンを規定する要因」<sup>3)</sup>としてあげていることから、学校における教育現場においても同様のことがあると考えた。つまり、企業における組織風土についての研究を学校の授業に応用できると考えた。

組織風土と学校についての研究<sup>6) 7)</sup>を見てみると、学校における組織風土と教員との関係をテーマに研究されているが、授業における組織風土と学習者をテーマとした研究が稀少である。

そこで、学校現場において、学年、学級、授業などに雰囲気があり、児童、生徒、学生に少なからず、何かしらの影響があると考えた。授業の雰囲気としての組織風土がどのような構造をしているのか、また、学習者がその組織風土に合っているのかという感覚として適合度を調べ、授業における組織風土別因子がどのように適合度に影響を与えているのかを調べることにした。

そこで、本研究の目的を、第一に体育授業における組織風土の構造を明らかにする。第二に組織風土別因子がどのように適合度に対してどのような影響を与えたのかを明らかにすることにする。

## II. 方法

1. **調査対象**：教育学部大学生 137名（男子学生 46名、女子学生 91名）

2. **調査内容**：平成25年夏学期最終日にアンケート調査を1回実施した。

### 3. 授業内容

(1) 場 所：大阪府S大学

(2) 授業概要

①授業区分（選択）

②種目選択：「バレーボール」「ソフトボール」「生涯スポーツ」

※生涯スポーツとは、大学を卒業してからも運動・スポーツを続けることを目的にボール運動を中心に展開した授業である。

③授業目的：各々の能力を駆使し、他の学生と旨くコミュニケーションをとり、上手にゲームを展開していけることを目的とする。

(3) 調査方法

選択種目の担当教員にアンケート調査を依頼し、アンケートを回収していただいた。

(4) 調査項目

①学生の状態について

学生の状況を知るため、学生自身についての 13 項目を作成し、学生による属性測定項目とした。

②学生による体育授業について

体育授業について学生自身の意見を調査した。また、学生自身が感じた体育授業の雰囲気に対する学生自身の適合度と体育授業の満足度に対して 5 段階で回答を求めた。

③体育授業の組織風土について

組織風土の概念についての定義は多く論議をされている中で、関本<sup>4)</sup>は組織風土を「組織の中で生活し、活動している人びとによって明白に、あるいは暗黙に知覚され、メンバーのモチベーションや態度・行動に影響を及ぼすと考えられる一連の特性(価値観、規範、慣習、雰囲気等々)のパターンのことをいう。その特性のパターン、すなわち組織風土は、それぞれの組織体を他の組織体から識別できるような、比較的持続的な特性の複合的全体である。」と定義をし、企業における組織風土尺度作成について研究をしている。本研究においても、授業が学習者に及ぼす影響について追究していることから、関本の組織風土についての概念を、本研究の組織風土の定義とする。

④組織風土項目について

関本<sup>4)</sup>による組織風土項目を参考にし、企業用の組織風土測定 80 項目を体育授業に適用できるように改変しアンケート調査を行った。

先行研究では、組織風土測定項目は、16 次元 80 項目から構成されており、「6. まったくその通りだ, 5. かなりその通りだ, 4. ややその通りだ, 3. ややその反対だ, 2. かなりその反対だ, 1. まったくその反対だ」の 6 段階尺度で作成されている。この調査について因子分析を施した結果、第 1 因子:「権威主義・責任回避」、第 2 因子:「自由闊達・開放的」、第 3 因子:「長期的・大局的志向」、第 4 因子:「柔軟性・創造性・独自性」、第 5 因子:「慎重性・綿密性」、第 6 因子:「成果主義・競争」第 7 因子:「チームワークの阻害」の 7 因子、49 項目を組織風土測定項目として研究されている。予備調査において先行研究と同じく組織風土測定項目を 80 項目としたが、時間的制約から「5. 最もそう思う, 4. そう思う, 3. ふつう, 2. そう思わない, 1. 全くそう思わない」の 5 段階尺度で作成した。

その結果について因子分析を施した 8 因子、68 項目、全分散を説明する割合は 63.77% となった。本研究は 68 項目を組織風土測定項目とした。

⑤組織風土に対する適合度について

「この授業の雰囲気は自分に合っていると思いますか。」という質問項目を設定し、「5. 最もそう思う, 4. そう思う, 3. ふつう, 2. そう思わない, 1. 全くそう思わない」の 5 段階尺度で作成した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 組織風土性尺度の分析

組織風土性尺度 68 項目の平均値、標準偏差を算出した。そこで、天井効果およびフロア効果の見られた項目 (05. いつもワイワイガヤガヤと活発で明るい雰囲気が漂っている。)を除外

した。残り、67項目に対して主因子法による因子分析を行った。固有値の変化は19.227、8.444、2.646、2.214、1.857、1.829、・・・というものであった。予備調査では8因子構造であったことから、8因子構造が妥当であると考えた。そこで、再度8因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった項目(63. 体育授業の理念や体育授業での約束事が大事にされ、それに照らして学生の行動が方向づけられる傾向がある。)を除外した。再度主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった項目(07. 一時的にぎくしゃくすることがあっても、葛藤を避けず腹を割って話し合うことがよとされる雰囲気がある。)を除外した。再度主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果7因子で因子構造がまとまった。そのため、再度7因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。Promax回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表1-1に示す。なお、回転前の7因子で65項目の全分散を説明する割合は56.436%であった。

第1因子は、所属しているチームのことにしか考えていないことや責任を他人に転嫁する項目が高い負荷量を示していた。そこで、「自己中心的・責任回避」因子と命名した。第2因子は、地道な努力を続けることや失敗を非難しない項目が高い負荷量を示していた。そこで、「積極的

表1-1 体育授業における組織風土の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン)

| 項目内容  | I      | II     | III    | IV     | V      | VI     | VII    |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 44. 授業全体のことよりも、自分のチームや担当している役割役目のことしか考えない雰囲気がある。                            | 0.877  | -0.095 | -0.018 | -0.151 | 0.030  | 0.046  | 0.121  |
| 61. 何か問題が起こっても、責任の所在がはっきり特定されず、ぼやけてしまうところがある。                               | 0.805  | 0.125  | -0.049 | -0.111 | 0.067  | 0.062  | 0.011  |
| 27. 失敗の責任を他人に転嫁しあうようなところがある。  | 0.783  | -0.239 | 0.127  | 0.158  | -0.038 | 0.019  | 0.057  |
| 56. 目立ちすぎると叩かれる雰囲気がある。  | 0.768  | -0.070 | -0.051 | 0.028  | -0.022 | 0.128  | 0.067  |
| 30. どんなに苦勞しても、結果が悪ければ、相手にされないところがある。  | 0.759  | -0.177 | 0.144  | 0.039  | 0.088  | -0.070 | -0.095 |
| 60. 己を殺して組織(授業)のために行動することが尊ばれる。   | 0.758  | 0.043  | 0.001  | 0.012  | 0.038  | -0.070 | -0.124 |
| 55. 常識からははずれたようなことを言ったりすると、まるで「変わり者」のように扱われるところがある。                         | 0.722  | -0.071 | 0.068  | 0.002  | -0.152 | 0.058  | 0.020  |
| 40. 「結果がすべて」という雰囲気がある。  | 0.717  | -0.010 | -0.029 | -0.023 | 0.103  | -0.067 | -0.178 |
| 20. この体育授業では、成果が上がらないと、肩身の狭い思いをする。  | 0.713  | -0.187 | 0.052  | 0.095  | 0.163  | -0.168 | -0.006 |
| 04. 大勢に逆らって反対意見を述べたり、異質な意見を主張したりすると、嫌がられるようなところがある。                         | 0.702  | 0.020  | 0.001  | -0.073 | -0.067 | -0.067 | 0.075  |
| 42. 個々人の主張が強すぎて、チームとしてひとつにまとまりにくいところがある。                                    | 0.693  | -0.098 | 0.243  | -0.098 | -0.235 | 0.015  | -0.057 |
| 12. 長いものには巻かれるような雰囲気がある。  | 0.686  | 0.280  | -0.145 | -0.037 | -0.089 | 0.050  | -0.039 |
| 57. 直観に基づく直断的な主張は軽視され、論理的によく詰められた意見が重視される。                                  | 0.669  | 0.067  | 0.189  | -0.267 | -0.044 | 0.279  | 0.026  |
| 38. 体育授業内では事を荒立てないことが何よりも重要とされる。  | 0.638  | 0.074  | 0.028  | 0.017  | 0.163  | 0.011  | -0.155 |
| 58. 実力者の発言に対しては、誰も異を唱えようとはしない。  | 0.638  | 0.134  | -0.047 | -0.133 | -0.025 | 0.048  | 0.079  |
| 09. 無責任な、評論家的発言がまかり通るところがある。  | 0.614  | 0.049  | -0.187 | 0.226  | 0.087  | -0.029 | 0.120  |
| 66. 状況が変わっても、なかなか旧来のやり方や慣習を変えようとはしないところがある。                                 | 0.593  | -0.123 | -0.027 | 0.270  | -0.052 | 0.363  | -0.130 |
| 59. 石橋を叩いてからでないと渡らないところがある。   | 0.569  | 0.178  | -0.017 | 0.144  | -0.008 | -0.059 | -0.200 |
| 36. 目標課題やノルマを達成しなければならぬというプレッシャーが常に存在している。                                  | 0.567  | -0.113 | 0.186  | 0.033  | 0.206  | -0.084 | -0.252 |
| 31. 個人の業績よりも、チームの業績が優先される傾向がある。   | 0.509  | 0.310  | -0.082 | -0.155 | 0.412  | 0.107  | 0.176  |
| 01. 仲間同士で足を引っ張り合うような雰囲気がある。   | 0.486  | 0.116  | -0.190 | -0.032 | 0.101  | -0.271 | 0.033  |
| 15. この体育授業では人一倍の成果をあげたとしても、報われることが少ない。                                      | 0.446  | -0.040 | 0.003  | 0.247  | 0.188  | 0.067  | 0.074  |
| 17. 教員の指示意向に対して、学生からは反論しにくい雰囲気がある。  | 0.431  | -0.086 | -0.030 | 0.329  | 0.098  | 0.116  | -0.043 |
| 23. 物事の決定は、オープンな議論に基づいてなされるよりは、根回しなどによってなされる傾向がある。                          | 0.427  | 0.156  | -0.107 | 0.213  | 0.086  | 0.085  | -0.418 |
| 34. 自らの勝利をある程度犠牲にしても、最終的な勝利の追求を重視するところがある。                                  | 0.417  | 0.032  | 0.028  | 0.226  | 0.271  | -0.174 | 0.101  |
| 21. 常に競争意識を駆り立てるようなところがある。  | 0.403  | 0.353  | -0.056 | 0.234  | -0.058 | -0.211 | -0.056 |
| 48. 成果のいかんにかかわらず、いつも授業時間内まで残っている人が認められるところがある。                              | 0.400  | 0.074  | 0.092  | 0.045  | 0.368  | 0.130  | 0.052  |
| 50. 確固たる見識(けんしき)の有る無しが人望の決め手となっている。   | 0.386  | 0.023  | 0.334  | 0.037  | 0.015  | 0.341  | 0.032  |
| 26. たとえ、体育授業の和を乱す結果になっても、自分のペースで行動することが許される雰囲気がある。                          | 0.386  | 0.066  | 0.045  | 0.363  | -0.026 | 0.145  | 0.003  |
| 46. 抜本的な改革よりも、現状対応的な問題解決が重視される。   | 0.351  | 0.033  | 0.312  | -0.084 | 0.108  | 0.108  | 0.181  |
| 10. たとえいい結果がでなくても、地道な努力を続けていけば、評価されるところがある。                                 | -0.105 | 0.775  | -0.012 | -0.152 | -0.062 | -0.011 | -0.038 |
| 14. 新しい試みをして失敗したとしても、そのことだけでマイナスの評価を受ける心配はない。                               | 0.000  | 0.757  | -0.023 | -0.188 | 0.042  | 0.041  | -0.073 |
| 28. 困った時など、メンバー同志が自発的に助け合う雰囲気がある。   | -0.303 | 0.606  | 0.117  | 0.084  | 0.049  | 0.100  | 0.245  |
| 16. お互いに競争意識をもち、切磋琢磨(せつさくたくま)する風がある。  | 0.128  | 0.581  | -0.116 | 0.063  | 0.062  | -0.021 | 0.180  |
| 02. ユニークな発想や新しいアイデアが積極的に採りあげられ活用されるところがある。                                  | 0.226  | 0.560  | -0.026 | 0.044  | -0.211 | -0.179 | 0.010  |
| 29. 各チームが、他チームを省みず、専ら自己チームの有利中心に活動することが、結局は体育授業全体を向上させていく事につながっていくと考えられている。 | -0.175 | 0.547  | -0.050 | 0.427  | 0.263  | -0.075 | 0.084  |
| 08. 各人の個性をのびのびと発揮することができる。  | -0.327 | 0.545  | 0.335  | 0.089  | 0.048  | 0.039  | -0.038 |
| 19. 困難な状況に直面しても「何とかなるさ」という楽天的な雰囲気がある。                                       | 0.089  | 0.539  | -0.124 | 0.040  | 0.052  | 0.149  | 0.097  |
| 24. はじめから完全性を追求するよりも、「走りながら、考える」ことをよとするところがある。                              | 0.022  | 0.510  | 0.139  | -0.122 | 0.063  | -0.032 | -0.103 |
| 18. 何事も、目の状況にとられず、長期的な視点で見ることが奨励されるところがある。                                  | -0.103 | 0.500  | 0.380  | 0.140  | 0.000  | 0.064  | -0.039 |

体育授業の組織風土における学生の組織風土に対する適合性に関する一考察

|  |        |        |        |        |        |        |        |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 13. 何事につけ、周りのものと競い合うような雰囲気がある。   | 0.436  | 0.490  | -0.251 | 0.067  | -0.237 | 0.089  | -0.031 |
| 22. 周囲に煩(わずら)わされることなく、腰をすえて学習に打ち込める雰囲気がある。                               | -0.048 | 0.474  | 0.356  | -0.043 | 0.165  | -0.016 | 0.021  |
| 06. 教員にいろいろお伺いをたてなくても、自分の裁量で学習をどんどん進めていくことができる。                          | 0.152  | 0.462  | 0.037  | -0.025 | 0.013  | -0.084 | 0.248  |
| 11. 喜怒哀楽をストレートに出しても、教員から咎(とが)められることはない。                                  | 0.102  | 0.456  | 0.135  | 0.014  | -0.145 | -0.216 | 0.192  |
| 03. 一般にこの体育授業の教員は、学生の失敗や起こした問題に対して自ら最終責任をとってくれるところがある。                   | 0.025  | 0.447  | 0.272  | 0.029  | 0.134  | 0.020  | -0.061 |
| 45. 既存の考えや経験の枠にとらわれることなく、ものごとを柔軟に考えることが推奨される。                            | -0.078 | 0.380  | 0.286  | 0.001  | -0.012 | 0.257  | 0.050  |
| 49. 体育授業内での話し合いにあたっては、タイミングとか、スピードをあまり気にしないで、いろいろな角度から慎重に検討をつくした案が求められる。 | 0.144  | 0.117  | 0.633  | -0.057 | 0.016  | 0.074  | -0.049 |
| 51. いったん決まったことに対しては、みんなが心を合わせて協力し合う雰囲気がある。                               | -0.069 | -0.021 | 0.607  | 0.020  | 0.065  | -0.036 | 0.182  |
| 37. 教員や発言力の強い学生に対しても自由に物が言える雰囲気がある。                                      | -0.062 | 0.126  | 0.517  | 0.129  | -0.316 | 0.061  | -0.028 |
| 39. 長期の学習目標や中長期計画が広く組織内に浸透している。  | 0.002  | 0.047  | 0.516  | 0.122  | 0.097  | 0.170  | 0.291  |
| 54. 自由奔放より冷静沈着に学習を進める人が高く評価されるところがある。                                    | 0.448  | -0.050 | 0.467  | -0.082 | 0.119  | -0.139 | 0.045  |
| 33. 教員は学生の生涯に渡ってスポーツができるように、いろいろな力になってくれるところがある。                         | -0.120 | 0.341  | 0.454  | -0.010 | -0.052 | -0.056 | 0.022  |
| 53. 自ら行動を起こさず、何かにつけて教員からの指示や情報伝達を待つという雰囲気がある。                            | 0.348  | -0.100 | 0.390  | 0.196  | 0.031  | -0.132 | 0.225  |
| 25. 体育授業を展開するにあたって個人の事情をかなり配慮してくれる。                                      | 0.096  | 0.229  | 0.371  | 0.072  | -0.092 | -0.086 | -0.069 |
| 35. 全体的な視野に立った大局的な発想や意見が大事にされる風風がある。                                     | 0.019  | 0.249  | 0.353  | 0.243  | -0.163 | -0.078 | 0.142  |
| 52. 体育授業において学術的理論や知見が重要視される風風がある。  | 0.046  | -0.086 | 0.449  | 0.589  | -0.222 | -0.017 | 0.101  |
| 65. 多方面の能力知識を持つ人よりスペシャリストの育成に重点が置かれている。                                  | 0.382  | -0.233 | -0.032 | 0.507  | 0.069  | 0.154  | -0.249 |
| 64. 体育授業内での話し合いの場で自分の意見をはっきり表明しないと、無能という烙印を押されかねない。                      | 0.397  | 0.034  | -0.074 | 0.501  | -0.173 | 0.171  | -0.068 |
| 62. 生涯スポーツにのっとった人材育成よりも、即職的な人材の育成が重視されている。                               | 0.372  | 0.007  | 0.103  | 0.411  | -0.012 | 0.263  | -0.051 |
| 32. 一人一人の役割が明確に決められており、それからはずれないように役割をすすめることが求められる。                      | 0.320  | 0.083  | 0.281  | 0.059  | 0.467  | -0.143 | -0.102 |
| 43. 率直で、ストレートな発言や意思表示が歓迎される。   | 0.108  | 0.254  | 0.270  | 0.226  | -0.454 | 0.057  | 0.252  |
| 68. みんながぬるま湯に浸ることに馴れきって緊張感が少ない。  | 0.459  | 0.003  | -0.180 | 0.149  | -0.096 | 0.520  | 0.020  |
| 67. 長期戦略や長期計画は「無用の長物だ」という考え方が幅をきかせている。                                   | 0.432  | -0.051 | 0.009  | 0.161  | 0.124  | 0.434  | -0.266 |
| 41. 一般に教員と学生の間人間関係には、大変暖かい雰囲気が感じられる。                                     | -0.221 | 0.218  | 0.360  | -0.081 | -0.057 | 0.055  | 0.441  |
| 47. 体育授業では、温情で良い評価がつけられる。  | 0.011  | 0.320  | 0.085  | 0.111  | 0.017  | -0.105 | 0.420  |
| 因子間相関  | I      | II     | III    | IV     | V      | VI     | VII    |
| I  | -      | 0.211  | 0.275  | 0.425  | 0.122  | 0.179  | -0.033 |
| II   |        | -      | 0.413  | 0.290  | 0.012  | 0.010  | 0.163  |
| III  |        |        | -      | 0.228  | 0.140  | 0.035  | -0.005 |
| IV   |        |        |        | -      | 0.254  | 0.081  | 0.020  |
| V  |        |        |        |        | -      | 0.150  | -0.028 |
| VI   |        |        |        |        |        | -      | 0.018  |
| VII  |        |        |        |        |        |        | -      |

因子と命名した。第3因子は、授業内における話し合いでは、いろいろな角度から慎重に検討をつくした案が求められることや心を合わせて協力し合う項目が高い負荷量を示していた。そこで、「協力的」因子と命名した。第4因子は、専門性を追求することや結果を出すことに意義を見出す項目が高い負荷量を示していた。そこで、「専門的志向・成果的」因子と命名した。第5因子は、役割分担や意思表示に重要性を見出す項目で構成されていた。そこで、「責任的」因子と命名した。第6因子は、環境が身近なものとして慣れ親しむことや短期的計画が推奨する項目で構成されていた。そこで、「親近的・変化性」因子と命名した。第7因子は、暖かい人間関係や思いやりの項目で構成されていた。そこで、「信頼性」因子と命名した。

## 2. 相関関係と因果関係の検討

体育授業における組織風土性尺度の因子分析において、各因子に高い負荷量を示した項目の平均値を算出することにより、自己中心的・責任回避得点(平均 2.85, SD 0.67)、積極的得点(平均 3.74, SD 0.57)、協力的得点(平均 3.49, SD 0.55)、専門的志向・成果的得点(平均 3.03, SD 0.75)、責任的得点(平均 3.30, SD 0.69)、親近的・変化性得点(平均 3.13, SD 0.99)、信頼性得点(平均 3.89, SD 0.68)とした。内的総合性を検討するために $\alpha$ 係数を算出したところ、自己中心的・責任回避で $\alpha=0.96$ 、積極的で $\alpha=0.90$ 、協力的で $\alpha=0.80$ 、専門的志向・成果的で $\alpha=0.79$ 、責任的で $\alpha=0.22$ 、親近的・変化性で $\alpha=0.79$ 、信頼性で $\alpha=0.40$ であった。

表1-2 体育授業の組織風土別因子と適合度の相互関係

|            | 適合度 | 自己中心的・<br>責任回避        | 積極的          | 協力的                  | 専門的志向・<br>成果的        | 責任的          | 親近的・変化<br>性          | 信頼性                   |
|------------|-----|-----------------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------|----------------------|-----------------------|
| 適合度        | -   | -0.036<br><i>n.s.</i> | 0.384<br>*** | 0.267<br>***         | 0.031<br>***         | 0.312<br>*** | 0.006<br>***         | 0.245<br><i>n.s.</i>  |
| 自己中心的・責任回避 |     | -                     | 0.340<br>*** | 0.476<br>***         | 0.745<br>***         | 0.531<br>*** | 0.637<br><i>n.s.</i> | -0.008<br><i>n.s.</i> |
| 積極的        |     |                       | -            | 0.608<br><i>n.s.</i> | 0.306<br>***         | 0.501<br>*** | 0.066<br>**          | 0.456<br>***          |
| 協力的        |     |                       |              | -                    | 0.471<br><i>n.s.</i> | 0.623<br>*** | 0.228<br>***         | 0.428<br>***          |
| 専門的志向・成果的  |     |                       |              |                      | -                    | 0.438<br>*** | 0.608<br>***         | 0.010<br><i>n.s.</i>  |
| 責任的        |     |                       |              |                      |                      | -            | 0.246<br>***         | 0.330<br>***          |
| 親近的・変化性    |     |                       |              |                      |                      |              | -                    | -0.035<br><i>n.s.</i> |
| 信頼性        |     |                       |              |                      |                      |              |                      | -                     |

\*\*p<.01 \*\*\*p<.001

また、体育授業における組織風土の適合度得点(以下、「適合度」とする)の平均値は4.13, SDは0.95であった。体育授業の組織風土別因子と適合度の相互関係を表1-2に示す。まず、体育授業の組織風土別因子間の相関を見てみると、「積極的」と「自己中心的・責任回避」、「協力的」と「自己中心的・責任回避」、「協力的」と「積極的」、「専門的志向・成果的」と「自己中心的・責任回避」、「専門的志向・成果的」と「積極的」、「専門的志向・成果的」と「協力的」、「責任的」と「自己中心的・責任回避」、「責任的」と「積極的」、「責任的」と「協力的」、「責任的」と「専門的志向・成果的」、「親近的・変化性」と「自己中心的・責任回避」、「親近的・変化性」と「専門的志向・成果的」、「親近的・変化性」と「責任的」、「信頼性」と「協力的」、「信頼性」と「専門的志向・成果的」との間有意差(p<.001)において正の相関、「親近的・変化性」と「協力的」との間有意差(p<.01)において正の相関、「信頼性」と「親近

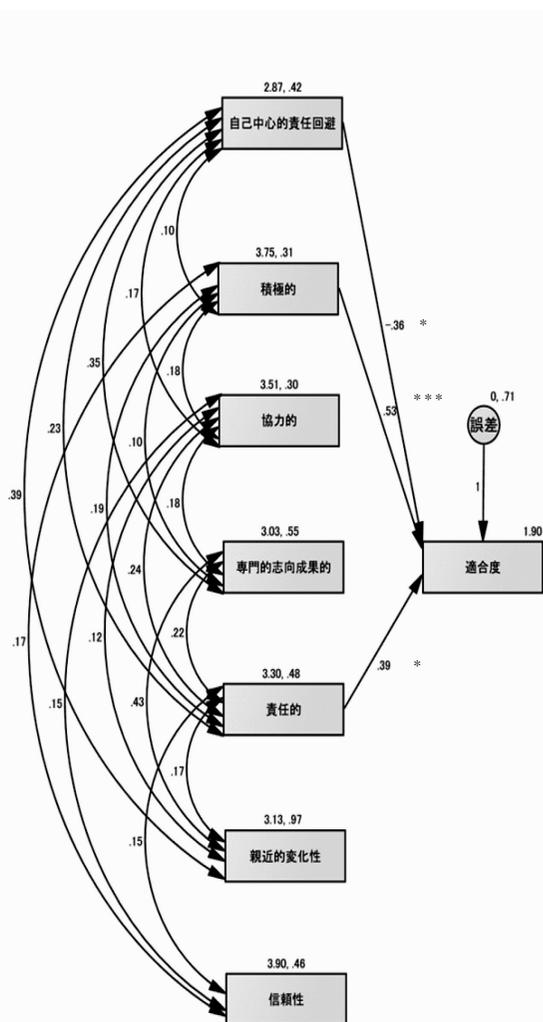


図1 パス解析の結果

注) 有意なパスのみ描いてある \*p<.05, \*\*\*p<.001

的・変化性」との間に有意差(p<.001)において負の相関が見られた。

このことから、体育授業における組織風土別因子のほとんどが、お互いに良い影響を与えと言えらる中で、墮落してしまうような組織風土と良好な人間関係を築けるような組織風土は、相性が良くないと考えられる。

体育授業における組織風土の下位尺度得点が組織風土に対する「適合度」に与える影響を検討するために、重回帰分析を行った。結果を表 1-3 に示す。また、共分散分析によるパス解析を行った。まず、7つの因子すべてが「適合度」に影響を及ぼすことを仮定して分析を行った。その結果、「積極的」から「適合度」、「専門的志向・成果的」から「適合度」、「親近的・変化性」から適合度、「信頼性」から「適合度」へのパス係数が有意でなく、適合度指標は AIC=88.000、RMSEA=0.286 であった。そこで、有意でなかったパスを削除し、再度分析を行ったところ、AIC は 81.570 と低下した。図 1 に最終的モデルを示す。

「積極的」と「責任的」が「適合度」に対して正の有意なパスを示して、「自己中心的・責任回避」が「適合度」に対して負の有意なパスを示した。「専門的志向・成果的」、「協力的」、「責任的」、「信頼性」から適合度に対する標準偏回帰係数が有意ではなかった。

このことから、コツコツと地道な努力や役割分担や意思表示や環境が身近であるというような組織風土は、学習者自身にとって適していたと感じていると考えられる。また、所属チームが有利になることやミーティングや専門性を追求することなどがあるような組織風土は、学習者自身にとって適していなかったと感じていると考えられる。

#### IV. 考察

本研究の目的の第一の目的が、体育授業における組織風土の構造を明らかにすることであった。体育授業における組織風土を測定するために、企業用組織風土測定項目を参考にして体育授業用組織風土測定項目に変更したものの 68 項目をアンケート用紙として作成し、調査を実施した。アンケート調査の結果について因子分析を施したところ、第 1 因子「自己中心的・責任回避」、第 2 因子「積極的」、第 3 因子「協力的」、第 4 因子「専門的志向・成果的」、第 5 因子「責任的」、第 6 因子「親近的・変化性」、第 7 因子「信頼性」の 7 因子 65 項目の全分散を説明する割合は 56.436%でまとまった。これらの結果から、個人的感情が露わになりやすく、仲間との協調性やゲームの結果が二の次になるような特徴を持った体育授業の組織風土であったと考えられる。

第二の目的が、組織風土別因子が「適合度」に対してどのような影響を与えたのかを明らかにすることであった。つまり、体育授業に参加した学生により醸し出された組織風土ではあるが、その組織風土にどれだけ体育授業に参加した学生が適している（以下、「適合度」とする）と考えているかを明らかにすることであった。そこで、組織風土別因子が適合度に与える影響を検討するために重回帰分析を施した。その結果、「積極的」と「責任的」が適合度に対して正の有意なパスを示して、「自己中心的・責任回避」が適合度に対して負の有意なパスを示した。

表 1-3 重回帰分析結果

| 重回帰分析結果    |           |
|------------|-----------|
|            | $\beta$   |
| 自己中心的・責任回避 | -0.374 *  |
| 積極的        | 0.404 *** |
| 協力的        | -0.024    |
| 専門的志向・成果的  | -0.016    |
| 責任的        | 0.334 *   |
| 親近的・変化性    | 0.044     |
| 信頼性        | -0.070    |
| $R^2$      | 0.27 ***  |

\*p<.05 \*\*\*p<.001

「専門的志向・成果的」、「協力的」、「責任的」、「信頼性」から適合度に対する標準偏回帰係数が有意ではなかった。このことから、コツコツと地道な努力や役割分担や意思表示に重要性を見出すような真面目な組織風土に対して適合度が高まり、所属チームのみが有利になることや他人に責任転嫁するような自己中心的な組織風土に対して適合度が低くなることが分かった。つまり、学習者は、学習する上で他人と協力しながら進めて行けるような環境を望んでいると考えられる。

## V. 結論

本研究の目的は、第一に体育授業における組織風土の構造を明らかにすることであった。企業における組織風土測定についての研究では、関本による組織風土測定の試み(I)により、組織風土16次元80項目が作成された。この80項目に基づいて体育授業に対応させた組織風土項目を作成し、予備調査を行い、因子分析を施し、8次元68項目にまとめたものを用いた。調査の結果を因子分析し、第1因子「自己中心的・責任回避」、第2因子「積極的」、第3因子「協力的」、第4因子「専門的志向・成果的」、第5因子「責任的」、第6因子「親近的・変化性」、第7因子「信頼性」の7因子で65項目の全分散を説明する割合は56.436%であった。

今回の体育授業における組織風土の特徴として、第1因子が「自己中心的・責任回避」であり、第7因子「信頼性」であることから、他人よりも自己を優先する傾向にある組織風土であると思われる。

次に、第二に組織風土別因子が適合度に対してどのような影響を与えたのかを明らかにすることであった。体育授業における組織風土7因子が組織風土の適合に及ぼす影響を仮定して、共分散分析によるパス解析を行った。その結果、「専門的志向・成果的」、「責任的」、「信頼性」は、適合度へのパス係数が有意ではなかった。そこで、有意でなかったパスを削除し、再度分析をおこなった。「自己中心的・責任回避」が適合度に対して、低い値で負の有意なパスを示し、「積極的」が適合度に対して、中程度の正の有意なパスを示し、「責任的」が適合度に対して、低い値で正の有意なパスを示した。

学習者は、自己中心的な組織風土に対して自分たちに合わないと感じ、地道な努力を続けることや失敗を非難しないことや役割分担や意思表示に重要性を見出すような組織風土であれば自分たちに合うと感じていると考えられる。

このことから、自己中心的な組織風土は学習者自身に合わないと思いながらも、学習者自身が自己中心的な組織風土を醸し出しているという現状であることが分かった。また、「積極的」や「責任的」な組織風土が「適合度」に正の有意なパスことから、学習に対して前向きで、他人との仲間意識があるような組織風土を望んでいると考えられる。

## VI. 今後の課題

本研究の目的は、体育授業の組織風土の構造を明らかにすることであった。先行研究では及び予備調査では、8因子でまとめたが本研究では、7因子でまとめた。因子構造が7因子でまとめた背景を探る必要があると考えた。つまり、学習者を取り巻く環境について更に調査をする必要がある。

また、第2の目的として組織風土が適合度にどのような影響を与えるかであった。結果と

して、「積極的」、「責任的」な組織風土から適合度に対して肯定的に、「自己中心的・責任回避」的な組織風土から適合度に対して否定的に影響を及ぼすことが分かった。今回は一度限りの調査であることから、これらの結果がすべてとは言えないことから、今後さらに調査をしていく必要がある。

## 謝 辞

本研究の実施にあたり、貴重な時間を割いて、アンケート調査にご協力をいただいた池谷先生、越智先生から多大なご協力を得ました。ここに、心より御礼を申し上げます。

## 引用文献

- 1) 伊丹敬之、加護野忠男「ゼミナール経営学入門」(1989)年 345 項
- 2) 関本昌秀・三沢光男(1997)組織風土とパーソナリティの適合性と組織帰属意識、定着意識、職務関与、業績との関係に関する一考察 豊橋創造大学紀要, No. 1, 143-155.
- 3) 福岡隆康(2006)組織風土研究の発展の歴史—組織風土と組織文化の比較 広島大学マネジメント研究 (6), 1-19
- 4) 関本昌秀・鎌形みや子・山口祐子 2001 組織風土尺度作成の試み(I) 豊橋創造大学紀要, 5, 51-65.
- 5) 田尾雅夫 1991 「組織の心理学」 有斐閣ブックス 186 項
- 6) 土屋章 1998 学校の組織風土(一)：学校経営概念再検討から教育経営概念へ 盛岡大学紀要 17, 79-90.
- 7) 蔵田 幸三 1998 「学校改善と学校の個性についての調査—校長からみた学校組織風土の分析—」の報告(〈小特集〉学校改善と学校の個性に関する研究東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室紀要 17, 50-72.)

## 参考文献

- 宇土正彦、高島稔、永島惇正、高橋健夫 編著(1992)「新訂 体育科教育法講義」大修館書店
- 宇土正彦・八代勉・中村平(1989)「体育経営管理学講義」大修館書店
- 宮崎明世(2010)「筑波大学と附属学校との連携による保健体育科教育実習の在り方の検討：大学における事前指導および指導計画の作成法」筑波大学体育科学系紀要
- 宮入小夜子(2007)「組織風土の特性尺度の開発と活用—企業変革における組織風土特性尺度の活用の可能性について—」日本橋学館大学紀要
- 後藤幸男・三木信一・中橋国蔵(1994)「新経営管理論講義」中央経済社
- 荒牧亜衣(2010)「教養教育としての大学体育」目白大学短期大学部研究紀要
- 高橋健夫(2000)「子どもが評価する体育授業過程の特徴」体育學研究 45(2)、147-162.
- 細越淳二・鋤柄純忠(2002)「子どもの体育授業態度評価と学級に対する意識との関係」茨城キリスト教大 学紀要. II、社会・自然科学 35、99-109.
- 山本安次郎(1956)「新訳 経営者の役割」C. I. パーナードダイヤモンド社
- 若林満・松原敏浩・城戸康彰・渡辺直登(1988)「組織心理学」ナカニシヤ出版
- 小塩真司(2004)「SPSS と Amos による心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで」東京図書株式会社
- 小塩真司(2005)「研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析」東京図書株式会社

- 小塩真司(2007)「実践形式で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析」東京図書株式会社
- 松田岩男・杉原隆(1987)新版「運動心理学入門」大修館書店
- 鐘ヶ江淳一・中島憲子ほか(2005)「学校階梯による体育授業に対する態度の検討」近畿大学九州短期大学  
研究紀要(35)、39-49.
- 水月晃 笠井妙美 西田明史 柿原一貴 則元志郎(2009)「大学体育における知識・能力の形成(3):生涯スポーツ実践に向けた実験的授業」熊本大学教育学部紀要
- 石村貞夫(2006)SPSSによる分散分析と多重比較の手順 東京図書
- 石村貞夫(2007)SPSSによる統計処理の手順 東京図書
- 藤岡秀樹(1988)「学習動機についての研究」教育工学研究 10、43-54.
- 藤岡秀樹(1993)「教育評価・測定に関するこの1年間の研究動向」教育心理学年報 32、88-100.
- 梅垣浩二、小野伸一郎、田中美奈子(2003)「体育授業改善のためのアンケート調査について(自然科学)」  
舞鶴工業高等専門学校紀要 38、113-121.
- 梅野圭史、辻野昭(1982)「体育科における学習形態と児童の授業に対する態度との関係:小学校低学年を中心として」体育学研究 27(1)、1-15.
- 八代勉・中村平(2002)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店
- 福井里江・原谷隆史・外島裕・島悟・高橋正也・中田光紀・深澤 健二・大庭さよ・佐藤恵美・廣田靖子(2001)  
「職場の組織風土の測定:組織風土尺度12項目版(OCS-12)の信頼性と妥当性」産業衛生学雑誌
- 福地豊樹(2010)「身体を考える体育実践の試み第二報-トランポリン御実践事例を通して-」群馬大学教育実践研究
- 野中郁次郎(1978)「組織現象の理論と測定」千倉書房

## 資料 アンケート項目

体育授業に関するアンケート

学籍番号( ) 担当教員( ) 選択した種目(バレー・ソフトボール・生涯スポーツ)

### 1. 次の質問のあてはまる番号に○印をつけて下さい。

01. あなたの性別について。 . . . . . 1. 男 2. 女
02. あなたは体力に自信がありますか。 . . . . . 1. ある 2. ない
03. あなたは運動することに自信がありますか。 . . . . . 1. ある 2. ない
04. あなたは運動することが得意ですか。 . . . . . 1. 得意 2. 不得意
05. あなたは運動することが好きですか。 . . . . . 1. 好き 2. 嫌い
06. あなたは体育授業が好きですか。 . . . . . 1. 好き 2. 嫌い
07. あなたは過去の体育授業で嫌になったことがありますか。 . . . . . 1. ある 2. ない
08. あなたは得意な協議や種目がありますか。 . . . . . 1. ある 2. ない
09. あなたは選択種目(バレー・ソフトボール・生涯スポーツ)が好きですか。 . . . . . 1. 好き 2. 嫌い
10. あなたは選択種目(バレー・ソフトボール・生涯スポーツ)が得意ですか。 . . . . . 1. 得意 2. 不得意
11. 部活・サークル以外で運動をすることがありますか。 . . . . . 1. ある 2. ない
12. あなたはコミュニケーションをとることは得意ですか。 . . . . . 1. 得意 2. 不得意
13. あなたは友達をつくることは得意ですか。 . . . . . 1. 得意 2. 不得意

2. 次の質問のあてはまる番号に○印をつけて下さい。

最もそう思う 5-4-3-2-1 全くそう思わない

- 0 1. この授業の雰囲気は自分に合っていると思いますか。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 2. この授業を受講して何か得る物・事があったと思いますか。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 3. この授業に満足することができたと思いますか。・・・ 5-4-3-2-1

3. 次の質問のあてはまる番号に○印をつけて下さい。

最もそう思う 5-4-3-2-1 全くそう思わない

- 0 1. 仲間同志で足を引っ張り合うような雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 2. ユニークな発想や新しいアイデアが積極的に採りあげられ活用されるところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 3. 一般にこの体育授の教員は、  
学生の失敗や起こした問題に対して自ら最終責任をとってくれるところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 4. 大勢に逆らって反対意見を述べたり、異質な意見を主張したりすると、  
嫌がられるようなところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 5. いつもワイワイガヤガヤと活発で明るい雰囲気が漂っている。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 6. 教員にいちいちお伺いをたてなくても、自分の裁量で学習をどんどん進めていくことができる。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 7. 一時的にぎくしゃくすることがあっても、  
葛藤を避けず腹を割って話し合うことがよしとされる雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 8. 各人の個性をのびのびと発揮することができる。・・・ 5-4-3-2-1
- 0 9. 無責任な、評論家的発言がまかり通るところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 0. たとえよい結果がでなくても、地道な努力を続けていけば、評価されるところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 1. 喜怒哀楽をストレートに出しても、教員から咎（とが）められることはない。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 2. 長いものには巻かれるような雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 3. 何事につけ、周りのものと競い合うような雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 4. 新しい試みをして失敗したとしても、そのことだけでマイナスの評価を受ける心配はない。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 5. この体育授業では人一倍の成果をあげたとしても、報われることが少ない。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 6. お互いに競争意識をもち、切磋琢磨（せつさたくま）する気風がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 7. 教員の指示意向に対して、学生からは反論しにくい雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 8. 何事も、目先の状況にとらわれず、長期的な視点で見ることが奨励されるところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 1 9. 困難な状況に直面しても「何とかなるさ」という楽天的な雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 0. この体育授業では、成果が上がらないと、肩身の狭い思いをする。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 1. 常に競争意識を駆り立てるようなところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 2. 周囲に煩（わづら）わされることなく、腰をすえて学習に打ち込める雰囲気がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 3. 物事の決定は、オープンな議論に基づいてなされるよりは、  
根回しなどによってなされる傾向がある。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 4. はじめから完全性を追求するよりも、「走りながら、考える」ことをよしとするところがある。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 5. 体育授業を展開するにあたって個人的事情をかなり配慮してくれる。・・・ 5-4-3-2-1
- 2 6. たとえ、体育授業の和を乱す結果になっても、

- 自分のペースで行動することが許される雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
27. 失敗の責任を他人に転嫁しあうようなところがある。・・・5-4-3-2-1
28. 困った時など、メンバー同志が自発的に助け合う雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
29. 各チームが、他チームを省みず、専ら自己チームの有利中心に活動することが、  
結局は体育授業全体を向上させていく事につながっていくと考えられている。・・・5-4-3-2-1
30. どんなに苦勞しても、結果が悪ければ、相手にされないところがある。・・・5-4-3-2-1
31. 個人の業績よりも、チームの業績が優先される傾向がある。・・・5-4-3-2-1
32. 一人一人の役割が明確に決められており、  
それからはずれないように役割をすすめることが求められる。・・・5-4-3-2-1
33. 教員は学生の生涯に渡ってスポーツができるように、  
いろいろと力になってくれるところがある。・・・5-4-3-2-1
34. 目先の勝利をある程度犠牲にしても、最終的な勝利の追求を重視するところがある。・・・5-4-3-2-1
35. 全体的な視野に立った大局的な発想や意見が大事にされる気風がある。・・・5-4-3-2-1
36. 目標課題やノルマを達成しなければならないというプレッシャーが常に存在している。・・・5-4-3-2-1
37. 教員や発言力の強い学生に対しても自由に物が言える雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
38. 体育授業内では事を荒立てないことが何よりも重要とされる。・・・5-4-3-2-1
39. 長期の学習目標や中長期計画が広く組織内に浸透している。・・・5-4-3-2-1
40. 「結果がすべて」という雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
41. 一般に教員と学生の間の人間関係には、大変暖かい雰囲気が感じられる。・・・5-4-3-2-1
42. 個々人の主張が強すぎて、チームとしてひとつにまとまりにくいところがある。・・・5-4-3-2-1
43. 率直で、ストレートな発言や意思表示が歓迎される。・・・5-4-3-2-1
44. 授業全体のことも、自分のチームや担当している役割役目のことしか考えない雰囲気がある。5-4-3-2-1
45. 既存の考えや経験の枠にとらわれることなく、ものごとを柔軟に考えることが推奨される。・・・5-4-3-2-1
46. 抜本的な改革よりも、現状対応的な問題解決が重視される。・・・5-4-3-2-1
47. 体育授業では、温情で良い評価がつけられる。・・・5-4-3-2-1
48. 成果のいかんにかかわらず、いつも授業時間内まで残っている人が認められるところがある。・・・5-4-3-2-1
49. 体育授業内での話し合いにあたっては、タイミングとか、スピードをあまり気にしないで、  
いろいろな角度から慎重に検討をつくした案が求められる。・・・5-4-3-2-1
50. 確固たる見識（けんしき）の有る無しが人望の決め手となっている。・・・5-4-3-2-1
51. いったん決まったことに対しては、みんなが心を合わせて協力し合う雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
52. 体育授業において学術的理論や知見が重要視される気風がある。・・・5-4-3-2-1
53. 自ら行動を起こさず、何かにつけて教員からの指示や情報伝達を待つという雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
54. 自由奔放より冷静沈着に学習を進める人が高く評価されるところがある。・・・5-4-3-2-1
55. 常識からはずれたようなことを言ったりしたりすると、  
まるで「変わり者」のように扱われるところがある。・・・5-4-3-2-1
56. 目立ちすぎると叩かれる雰囲気がある。・・・5-4-3-2-1
57. 直観に基づく速断的な主張は軽視され、論理的によく詰められた意見が重視される。・・・5-4-3-2-1

体育授業の組織風土における学生の組織風土に対する適合性に関する一考察

- 58. 実力者の発言に対しては、誰も異を唱えようとはしない。・・・5-4-3-2-1
- 59. 石橋を叩いてからでないと渡らないところがある。・・・5-4-3-2-1
- 60. 己を殺して組織（授業）のために行動することが尊ばれる。・・・5-4-3-2-1
- 61. 何か問題が起こっても、責任の所在がはっきり特定されず、ぼやけてしまうところがある。・・・5-4-3-2-1
- 62. 生涯スポーツにのっとった人材育成よりも、即戦力的な人材の育成が重視されている。・・・5-4-3-2-1
- 63. 体育授業の理念や体育授業での約束事が大事にされ、  
それに照らして学生の行動が方向づけられる傾向がある。・・・5-4-3-2-1
- 64. 体育授業内での話し合いの場で自分の意見をはっきり表明しないと、  
無能という烙印を押されかねない。・・・5-4-3-2-1
- 65. 多方面の能力知識を持つ人よりスペシャリストの育成に重点が置かれている。・・・5-4-3-2-1
- 66. 状況が変わっても、なかなか旧来のやり方や慣習を変えようとならないところがある。・・・5-4-3-2-1
- 67. 長期戦略や長期計画は「無用の長物だ」という考え方が幅をきかせている。・・・5-4-3-2-1
- 68. みんながぬるま湯に浸ることに馴れきっていて緊張感が少ない。・・・5-4-3-2-1

アンケートにご協力ありがとうございました。

